



全日本折り紙ヒコーキ
日本記録 2位

武田 ^{しゅんや}峻佳 くん (米湊)



折るのが1mm違っても 飛び方が変わる

昨年3月、「折り紙ヒコーキ 四国大会」で、日本新記録を出した、小学6年生の武田峻佳くん。飛距離の部門と滞空時間の部門があり、武田くんは滞空時間14.33秒で新記録を樹立しました。

小学1年生のころから折り紙が好きで、2年前に児童館あすなる(米湊)で折り紙ヒコーキを教わったのがきっかけで始めました。



「スカイキング」
翼が広く、空気に
乗りやすい



よく飛ぶ折り紙ヒコーキを作るのに必要なのは、折り目をきちんと入れられる角がある台、長さを測ったりしっかりと折ったりするための物差し、印を付けるペン。

武田くんは、A5サイズの大会公式の紙を使い、長さを測りながら平行になるように折っていきます。よく使う紙ヒコーキの型は「スカイキング」と「ヘソ」。長く安定して飛ぶ型です。

「高く飛ばすためには持ち手の高さがある方が良くても、翼が広い方が安定しやすいよ。投げ方も大事で、僕は真上より少し前に向かって、腰をひねって足を使って飛ばす。使うのは腕だけじゃなくて全身！体育館の床から3分の2ぐらいまで上がるよ。」



1ミリ単位の細部にこだわって、折り紙ヒコーキの製作と練習に励む武田くん。実は昨年の記録は、1月に約0.5秒差で塗り替えられてしまいました。現在は、3月31日(土)に広島県で行われる「全日本折り紙ヒコーキ大会」で、記録更新を目指しています。「いいのが出来たと思っても、あまり飛ばなかったり、いまいちと思っても、よく飛んだりする。練習で15秒以上飛ぶことがあるけど、一番はどうなるかわからない。17秒を出して1位になりたい！」